

稲門弁理士クラブ



幹事長 西村 公芳

1. 稲門弁理士クラブとは？

稲門弁理士クラブは、早稲田大学卒業の弁理士の集まりで、早稲田大学に登録された稲門会の一つです。かつては特定大学の同窓集団であった他の会派が次々と学閥の枠を撤廃し、その門戸を広く開放しているのに対し、未だ出身大学にこだわっているところが現在の稲門弁理士クラブの最大の外形的特徴かと思えます。

ちなみに、近年発表されている弁理士試験の出身校別合格者数の統計をみますと、早稲田大学出身の合格者数は一大学としては少なくないのですが、それでも全合格者数に占める割合は6%前後のようです。この6%前後の合格者の中から新規に入会して下さる方を探さなければならないという事情もあり、現在の当クラブの会員数は約180名と、他の会派に比べてかなり控えめになっています。

2. 稲門弁理士クラブの特徴

稲門弁理士クラブが同窓集団であること、そして、少人数であることは上記のとおりですが、これに伴い、あるいは伝統的気風として、私たちのクラブには以下の実質的な特徴があります。

(1) 自由気ままであること

このように書くと、他会派が自由でないような、あるいは、私たちのクラブがビシッとしていないような印象を持たれるかもしれませんが、前者についてはそもそも“弁理士=自由人”ですし、そのようなことは一切ないと思います（後者については???です。）。これは雰囲気なのでなかなか説明しにくいのですが、例えば私のような「超」の付く若輩者が幹事長や日弁副幹事長になってしまったり、端からみれば大御所の先輩と新人会員が本当に

気軽におしゃべりできてしまったり、若手にもどんどん権限が与えられてしまったりするあたりは、稲門弁理士クラブならではの自由気ままさだと感じています。

(2) まとまりがよくフットワークが軽快なこと

稲門弁理士クラブも選挙母体であり政策集団の側面を持つ以上、日本弁理士会や日本弁理士クラブの施策その他に関して意見表明をさせていただいているのですが、組織が小さく、また、検討者の考え方がすんなりと同じ方向に揃うことが何故が多いので、そのような意見をとりまとめる際のプロセスが非常にスムーズだという特徴があります。また、組織の小ささに起因する機動性がありますので、何かを決定したときにそれを実行に移すことが比較的容易に済んでいるとも思われます。

ただ、あまり良いことばかりを列挙すると真実味に欠けるので難点も挙げますと、やはり組織の小ささに起因して、相当数の人材を確保する必要がある場合に大変苦労しています。この点については日弁他会派の先生方に助けていただきながらやりくりしているのが現況で、改善すべきところと痛感しています。

3. 今年度の活動

弁理士の自治的組織である日本弁理士会を組織的にサポートするために、他会派同様、稲門弁理士クラブも日本弁理士会の役員や各種委員会の委員等を受け持つべく優秀な人材を輩出しています。当クラブ所属の日本弁理士会役員としては、今年度は稲木次之監事と高久浩一郎常議員が活躍し、来年度は丸島儀一副会長と中村稔常議員が活躍する予定です。

また、会員相互の親睦や情報交換、切磋琢磨等を

図るために、今年度は以下の諸活動を行っています。

(1) 旅行会

特定侵害訴訟代理業務試験や活発な選挙関連活動の合間を縫って、11月の初旬に一泊二日で長野県の上諏訪温泉を訪れました。当クラブと友好関係にある無名会の先生方にも多数ご参加いただき、最終就寝組の就寝時刻が例年よりも遅い午前4時過ぎとなる等賑やかで活発な旅行会でした。

(2) 研修会

当クラブ特別顧問の丸島儀一会員を講師として、デジタル時代の技術標準と知的財産をテーマに研修会を開催しました。企業弁理士として類い希なる実績のある丸島会員による講義は、稲門会員のみならずご参加いただいた他会派の先生方や特許庁の方々にも好評を博しました。

また、上記の旅行会では夜の宴会に先立って、当クラブ前幹事長で東京地方裁判所知的財産調査官の杉村純子会員を囲んで座談会を開きました。侵害裁判所で初の民間弁理士調査官である杉村会員により、私たちが知らない裁判所の話題が色々提供され、参加者一同が聴き入りっぱなしの勉強会となりました。

(3) ボウリング同好会

今年度新たに設立したものとして、ボウリング同好会があります。これは、毎年12月に行われる日弁ボウリング大会に向けて頑張るという名目の下でみんなで遊ばしましょうという会で、1～2ヵ月に一度、品川プリンスホテルのボウリング場をホームレーンとして一流プロにボウリングの“いろは”を習っています。

まずはきれいなフォームから、ということで、スコアを伸ばすにはまだ時間がかかりそうですが、今年度の日弁ボウリング大会の稲門チームの投球フォームは期待できるかと思えます。

(4) ゴルフコンペ

これも近年になかった企画だと思えますが、11月と12月に小金井カントリークラブ等においてゴルフコンペを開催する予定です。参加希望者の都合に合わせてエントリーできるように、平日コンペと週末コンペを用意しました。

(5) 六六会

いま旬な六本木六丁目で集うことをテーマに開催されたのがこの六六会で、六本木ヒルズ森タワー51階の会員制クラブで圧巻の夜景に包まれながら美酒美食を堪能しました。日頃こうしたお洒落で高級なクラブに縁遠い若手の参加者が多かったせいか、その場を去るのが名残惜しいというような雰囲気がい、結局、参加者のほとんどが終電を逸して飲食を続け、うち何人かはマンガ喫茶で夜を明かしてピンからキリまでの暮らしを味わうという多彩な一夜を過ごしました。

(6) 日本弁理士会役員当選者祝賀会

毎年無名会と合同で開催している日本弁理士会役員定時選挙の当選者祝賀会を、今年も霞ヶ関ビルの東海大学校友会で開催する予定です。昨年は無名会から下坂スミ子会長、峯唯夫副会長が当選ということで大いに盛り上がったのですが、今年は当クラブから丸島儀一候補が副会長に当選ということで、また、中村稔候補が大掛かりな選挙運動を経て常議員に当選ということで、昨年同様の盛大な会を企画しているところです。

(7) 弁理士試験合格者祝賀会

毎年恒例の弁理士試験の合格者祝賀会を、今年もリーガロイヤルホテル東京で12月に行う予定です。この祝賀会は、早稲田大学卒業の弁理士が会派を越えて集まり開催するものですが、稲門弁理士クラブが中心になって企画・運営をしています。祝賀会では弁理士試験合格者で早稲田大学出身の方をご招待し、早稲田大学総長や法学部長、理工学部長等を来賓にお招きして、応援団やチアリーダーの先導で「都の西北」等を大合唱します。

4. おわりに

本稿の依頼を頂戴したときに、併せて昨年度のこの会派紹介を読ませていただいたのですが、5会派それぞれの個性が出ていて「なるほど」と妙な納得感を覚えました。それから、それらの名紹介文を前に何を書こうかと随分悩んだのですが、その割には気ままな拙稿になってしまいました。

ただ、この数ヵ月間、幹事長職に伴う様々な経験

をさせていただいて、その気ままな雰囲気こそが良くも悪くも稲門弁理士クラブのカラーなんだという心境に至っていることは先述のとおりです。そして、そういう意味ではこの拙稿も全体的を得ていないわけではないと考えられないでしょうか…。

ところで、今年度は日本弁理士クラブにとってその意義が問われた大きな転機の時期となり、私たちのクラブも自問自答することが非常に多くなっています。特に、今後日本弁理士会の役員制度や支部問

題がどのようになっていくのか、あるいは、日本弁理士クラブがどのような方向に進んでいくのかによって、私たちのクラブのあるべき姿も変わっていくと思います。

いずれにしましても、稲門弁理士クラブが時代に対応して良きを残し悪しきを改善していくためには、当クラブの会員はもとより日弁他会派の先生方のご支援、ご指導が不可欠ですので、今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。